



生来の口下手、筆無精者が本欄の執筆を引き受け、今更ながら後悔している。いざなり気のきいた事など書けるはずもないので、スタートは身近なお金の話でお茶を濁すことにしよう。

仕事柄、講演を頼まれることがあるが、「最近の経済動向」といった聞く側にすれば最初から眠くなりそうな演題が多い。現に、講演の間中、見事に熟睡していた方もいる。そこで、ま

ただいました日銀の平山です。平素はわが社の製品を、愛用ト

わが社の製品

さりありがとうございます。なとて言って、お金の話を少しする。例えばお札の発行量(積み重ねると富士山の約一九〇倍)や、お札の寿命(二万円札三年、千円札二年)、日銀の本店の金庫の広さ(東京ドームのグラウ

ズ初めに興味を引く話をする。だと考えだ。壇上にか眠る人はまずいない。今ご紹介い

言われるように、日銀から出た後「明日は湯の町北の町」と転々と流通し、最後にまた日銀に戻ってくる。それを、自動鑑査機という機械にかけて偽札が交じっていないか検査すると同時

平山 征夫 (日本銀行 新潟支店長)

廃棄するもの(損券)とに分ける。こうしたお金の動きは景気動向を素早く反映するので重要な指標にもなっている。

損券を見る度に、どんな旅をして戻ってきたのかと想像してしまふ。お年玉にももらった子供が大事にしていたお札だろうか。まさか悲しい男と女の別れに立ち会ったお札じゃないだろうか。……。それにしても、資源節約が世界的課題となっている折、少しでも長生きして戻ってきてくれることを願っている。今回は日銀の宣伝みたいになつてしまつたが、今年から金融機関のテレビCMが認められたことでもあり、お許しいただくこととしよう。

私の「晴雨計・その後」①

「わが社の製品」

平山征夫

知事になってすぐに県内に三つの大学が誕生した。大学進学率が全国下から二番目だった本県としては、地元受け皿が増えることは進学率向上にプラスになるので、県も応分の負担をすることにした。知事になって最初の仕事だった。現在その時出来た大学の学長をしているが、これも「天下り」かもしれない。今でも多くはないが講演を頼まれる。でも冒頭に「わが社の製品・・・」という「枕」は使わない。それは学長なのでわが社

の製品がないから。それと頼まれる講演内容がもはや世間が私を経済専門家と見ていないからか（もしくは関心の多くが株価・円相場動向にあり、私の資本主義論のような話は受けないからか）景気関係は殆どない。代わりに地域づくり、教育論、文化論（良寛・鷗外など）、生きがい論などにテーマは広がっている。だから意図して冒頭に雰囲気（ノンビリ？）した感じで羨ましい。その一年半後日銀を

急遽退職、選挙を闘い知事を二年、そして教授・学長を十年と大学人十年という人生を歩んでいる。昔から政治家と裁判官と教師にはならない（理由は長くなるので控えるが・・・と決めていたのだから、人生はわからない。

この人生が良かったかは棺桶に入る際に譲るとして、この歩んだ順番については喜んでいいる。経済と行政の経験を踏まえて若者に教育が出来るからだ。アカデミックではないが、実践経験を踏まえた授業はそれなりの意味があると自負している（本当は学生から若さを貰っているのだが・・・）。そこで、はっと思い当たった。

日銀時代のように「わが社の製品」は無いが、知事として行つた種々の事業（大地の芸術祭などの地域づくり、ビッグスワンや朱鷺メッセなどの施設等々）、そして教育者として育てた卒業生がいる。これからは講演の冒頭に胸を張って言おう、「私の自慢の作品を、ご愛用ください」と・・・。

それにしても、お金の旅も時代で変わってゆくが、「オレオレ詐欺」の受け渡しに使われるような旅だけはさせたくないと強く願っている。